



第3会場●4F 視聴覚室

■司 会／入江田吉文 鹿児島県大崎町教育委員会社会教育課 課長
重永 桂子 佐賀県立生涯学習センター 企画副主任

分科会の進め方

10:45~10:50

1 地域ぐるみの「防災教育キャンプ」—企画・運営の論理と方法—

10:50~11:20

野島 弘宣(熊本県上天草市) ひとづくりくまもとネット・三勢共同体

文科省の委託事業を活用して、防災教育と地域の絆を深めることを目的とした2泊3日のキャンププログラムである。会場を青年の家とし、企画・運営は地域の防災、医療、教育、福祉、自治会、婦人会、PTAなどの代表で構成する実行委員会形式を取った。中身は避難所生活体験を核とする災害時の疑似体験、参加者間の交流と連帯の促進である。方法は異年齢集団の班編成による役割分担や規律ある行動のためのコミュニケーションスキルに重点を置いた。保護者や地域住民の全期間参加の困難性、幼児や高齢者の体調管理の重要性などが課題である。

2 四季折々の溪谷に神楽舞う里—住んでよし、訪ねてよしの谷づくり—

11:25~11:55

澤田 定成(島根県飯南町) 谷自治振興会 会長

遡ること昭和40年代から、長きに渡り、過疎対策の自助、共助による活動を積みかさね、平成16年には従来組織を発展的に解消し、谷地区95世帯で構成する相互支援を目的とする谷自治振興会を発足させた。活動の眼目は、町営バス廃止に伴う輸送支援活動、廃校小学校を活用した神楽文化の継承と学習活動、卒業生を組織化した隔年同窓会、自治除雪組織(スノーレンジャー)の結成など。活動の企画・運営は住民による分業と協業、予算は住民の負担金と各種助成金をもって充てている。

3 地域活性化を食に見いだした団塊世代の村づくり —大山「手づくり豆腐サミット」による住民交流—

12:00~12:30

谷尾 良(鳥取県大山町) 国信村づくり委員会 とんトン倶楽部

国信地区には昭和29年以来の豆腐づくりの伝統があり、その設備も整っていた。「とんトン倶楽部」とは「村づくり委員会」の中の小委員会であり、旧「豆腐製造部」の新しいニックネームである。米の減反政策の影響で大豆の転作が増え、平成17年から団塊世代の居場所づくりのため、「豆腐小屋」の開放と地域活性化を目的とした豆腐づくりを復活させた。地域住民がこぞって参加できるよう祭りの要素を加えて始めた豆腐サミットは平成19年に開始、他地区の住民も巻き込んで現在6回目を終わったところである。通常の活動は、近隣の自治会や公民館等の要望に応じ、豆腐メニューを工夫しながら、週1~2回の頻度で行っている。メディア報道を通して活動が知られるようになり、近年では他団体からの出張サミットの要請にも応じている。